

開館した平和祈念資料館内を巡回する熊井さん（中央）＝28日午後5時半ごろ、イロイロ市で写す



インダナオ州マギンダナオ州マサパノ町で二十七日、イスラム急進派、モロ・イスラム解放戦線（MILF）が、国軍と約八時間わたって交戦し、国軍兵士七人が死亡、五人が負傷した。MILF側でも多数の死傷者が出たもよう。国軍が二十八日、発表した。国軍によると、戦闘は二十七日午前六時ごろ、同町ピアロンで始まった。陸軍

プノ長官らによると、解除のための移動・再配置は同日午後二時に始まり、三十六時間以内に完了する。展開中の海兵隊二大隊はインダナオ州マギンダナオ州マサパノ町に集結し、民兵と警官隊は所属先の自治体と警察署にそれぞれ戻る。

州西部のホロ、パラン、マインブン、タリパウ、パイクル各町を結ぶ幹線道路周辺では、「州民の経済活動



緊急会合に出席したプノ長官（右）＝28日午後1時すぎ、サンボアンガ

ミンダナオ地方マギンダナオ州マサパノ町で二十七日、イスラム急進派、モロ・イスラム解放戦線（MILF）が、国軍と約八時間わたって交戦し、国軍兵士七人が死亡、五人が負傷した。MILF側でも多数の死傷者が出たもよう。国軍が二十八日、発表した。国軍によると、戦闘は二十七日午前六時ごろ、同町ピアロンで始まった。陸軍

第六〇一大隊所属の部隊が移動中、約八十人で構成されるMILF部隊に遭遇した。交戦は午後二時ごろまで続いたという。

MILF側の被害状況について、陸軍報道官は「約二十人の死傷者が出た」と説明。これに対し、MILFも

と、南向き車線を高速で走っていたバスがカーブ地点で前方の車を追い越そうと北向き車線に入ったところ、前から来たトラックに衝突した。事故でバスの乗客、運転

セブの交通事故で13人死亡

ビサヤ地方セブ州ナガ市の国道で二十八日午前五時ごろ、セブ市行き的小型路線バスと大型トラックが正面衝突し、十歳の女児を含むバスの乗客ら十三人が死亡、四人が重傷を負った。国家警察ナガ市署による

戦争の悲劇を後世に

邦人集団自決の地イロイロ

太平洋戦争中に日本人の母子約四十人による集団自決があったビサヤ地方パナイ島イロイロ州で二十八日午後、戦争の歴史を後世に残す目的で建設された「平和祈念資料館」の開館式があった。

式典には、当時パナイ島に駐留した戸塚部隊の副官、熊井敏美さん(91)と東京練馬区IIや資料提供に

太平洋戦争中に日本人の母子約四十人による集団自決があったビサヤ地方パナイ島イロイロ州で二十八日午後、戦争の歴史を後世に残す目的で建設された「平和祈念資料館」の開館式があった。

式典には、当時パナイ島に駐留した戸塚部隊の副官、熊井敏美さん(91)と東京練馬区IIや資料提供に

島と沖縄の集団自決に関する本や太平洋戦争に関する資料約百七十点など。開館の意義について、同協会の網代正孝会長(70)は「日本人が起こした戦争を事実として後世に伝え、命の大切さを考えなくてはならない」と話している。

「母と子集団自決」は太平洋戦争末期の一九四五年三月十八日、米軍約七千人がパナイ島に上陸した。このため同島に駐留していた日本兵約千人と在留邦人たちは山奥へ逃げた。しかし、二十一日、日本軍の足手ま

自決当時の様子は不明確な部分が多いという。唯一残されているのが、熊井さんの著書が一冊あるのみで、英語版も資料館開館に合わせ用意した。

熊井さんは「資料館を通じて戦争という不幸な歴史を知り、今後の日比の友好および相互の利益になるように役立ててほしい」と語った。

資料館建設は、熊井さんが二〇〇七年九月ごろ、朽ち果てた慰霊碑の修復を網代会長に依頼したところから始まる。網代会長ら関係者は調査を開始、納められた遺骨をまずイロイロ市にあるイロイロ日系人会に移し、〇八年三月から修復作業を始めた。さらに外れ掛けたプレートを交換し、慰霊碑周辺の整備も行った。

移された遺骨を納めるため、同日日系人会の敷地内に元の慰霊碑の三分の二の慰霊碑（高さ約一・二メートル）も新たに作られた。

そこで、新しい慰霊碑の意味や戦争の歴史を後世に伝えようと資料館建設が決まった。資料館はイロイロ日系人会（電話033・321・2260）に隣接している。

平和祈念資料館が開館

慰霊碑も新たに整備